

1. 件名

ブルーカーボン(海洋生態系による CO₂ 固定化)の追求に関する技術戦略策定調査

2. 目的

総合科学技術・イノベーション会議において策定された「革新的環境イノベーション戦略」において、温室効果ガス(GHG: Greenhouse Gas)の国内での大幅削減が掲げられ、重点領域ごとのアクションプランが設定された。本調査では、これらアクションプランのうち、水産分野における GHG 削減に資するため、当分野における持続発展可能な社会システムに関する技術戦略を策定することを目的とする。

具体的には、「革新的環境イノベーション戦略」における重点領域「V. 農林水産業・吸収源」のうち、「ブルーカーボン(海洋生態系による炭素貯留)の追求」について、日本が有する有望な技術を駆使し、必要に応じて国際的な連携も視野に入れつつ、海洋への CO₂ 固定化の促進と海藻・海草類の有効利用を目的に、関係する機関が連携して取り組むべきアクションプランの策定に資することを旨とする。

3. 内容

「革新的環境イノベーション戦略」V. 農林水産業・吸収源において採り上げられた「ブルーカーボン(海洋生態系による炭素貯留)の追求」のうち、下記の項目について、国内外の技術・政策・産業実態を把握し、社会実装に向けた課題の抽出を行う。

- ・ 炭素吸収源とした海藻・海草を継続的に活用していくための食料用途以外の利用(例: 建材やプラスチック代替品)の開発の可能性及び適した資源の探索
- ・ 社会実装に向けたボトルネック課題(規制等の制度面)

また、調査分析にあたり、以下のプロセスを踏まえるものとする。

- ① 内外の政策動向、産業動向、市場動向の現状把握
- ② 日本の強み・弱み分析

該当分野に係る有望な革新的生産システム技術の内外における優位性、機会・脅威などを分析し、社会実装する上での技術的課題、経済的課題(コスト)、インフラ上の課題、制度(規制等)上の課題などのボトルネックを整理する。併せて、ボトルネックを克服し、該当分野において有望な革新的生産システム技術が社会実装される複数のシナリオを提示する。その上で、技術開発がブレークスルーとなる場合においては、技術開発の方向性を整理する。

- ③ 日本の取り得る戦術の複数提示

農林水産省及び経済産業省を始めとする関係機関が連携して取り組むべき技術開発の道筋(ロードマップ)を含む技術戦略を提示する。

- ④ 海外への技術展開や海外との共同研究の可能性を提示

更に、該当分野に係る有望な革新的生産システム技術の世界的な普及に向けた具体的取組の方向性を提示する。

なお、技術戦略の提示にあたっては、有識者委員会を適切な回数開催し、課題の分析結果や技術開発のシナリオ案等に関する必要な助言等を受けること。委員構成は、該当分野における有識者を産学官より幅広く選任するものとする。委員会の開催にあたっては、委員等の日程調整、会場手配、会議資料作成、議事録作成、謝金及び旅費の支払い等の業務及び調整を行う。

4. 調査期間

NEDO が指定する日から 2021 年 3 月 19 日（金）まで

5. 予算額

1,000万円以内

6. 報告書

- ・成果報告書の電子ファイル（PDF ファイル形式）を提出すること。
 - ・言語：日本語
 - ・提出部数：CD-R 等の不揮発性媒体に記録し、3 枚を所定の期日までに提出。
 - ・提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。
<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>
 - ・提出期限：2021 年 3 月 19 日（金）
- ※報告書の仕様については、別途指示することがある。

7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

8. その他

実施事項の内容や進め方、及び本仕様書に定めなき事項等については、NEDO と実施事業者が協議の上で決定するものとする。

以上